

| | | | | | | | | |
|-------------------------|--|--|--------|---------|------|----------|------|----------|
| 授業 科目名 | 【G】 | 教材開発演習Ⅱ | 区 分 | 開講年次 | 【G】3 | 単位数 | 【G】2 | |
| | 【H】 | 教材開発演習Ⅱ | | | 【H】3 | | 【H】2 | |
| | 【I】 | 教材開発演習Ⅱ | | | 【I】3 | | 【I】2 | |
| 科目区分 | 大学が独自に設定する科目 | | | | | | | |
| 授業形態 | 対面開講 | | | | | | | |
| 担当形態 | 単 独 | 【G】 教員の免許状取得のための選択科目 【H】 教員の免許状取得のための選択科目 【I】 教員の免許状取得のための選択科目 | | | | | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 大学が独自に設定する科目 | | | | | | | |
| サブ タイトル | 教材の開発と模擬授業の実践 | | | | 担当者 | 後藤 雅彦 | | |
| 授業概要 | 【概要】 | 【実務(中学校教諭)経験を活かした授業】 中学校における教育経験をもとに、学校現場で求められる基礎的な実践的指導力の育成を図る。 【概要】 本演習は、学校現場の中核となる「教材開発能力」及び「授業実践能力」を高めることをねらいとする。他関連する指導法の科目では比較的難しい一時間の授業丸ごとを扱ってみる。その模擬授業の実践のための教材開発、構想、展開、そして学習指導案作成と一連の取組をめざす。 | | | | | | |
| | 【到達目標】 | ○学校現場を見据えた実際的な教材開発の方法と、その視点を身に付けることができる。 ○学習指導案の作成と模擬授業の実践により、授業スキルを高めることができる。 | | | | | | |
| 履修条件 | 将来「学校の先生になりたい」という強い意思があり、本演習の内容(教材の開発研究、学習指導案の作成完成、模擬授業の準備取組)からして、自分の力で、積極的に授業計画表に沿った教育研究が進められる人に限る。 ※以上のことは第1回でも確認し、下記「その他」を理解判断のこと。 | | | | | | | |
| アクティブ ラーニングの 方法 | 【－】 | 事前学習型 | 【－】 | 反転授業 | 【○】 | 調査学習 | 【－】 | フィールドワーク |
| | 【－】 | 双方向アンケート | 【－】 | グループワーク | 【－】 | 対話・議論型授業 | 【－】 | ロールプレイ |
| | 【－】 | プレゼンテーション | 【○】 | 模擬授業 | 【－】 | PBL | 【－】 | その他 |
| ディプロマ・ ポリシーとの 関連性 | DP(ディプロマ・ポリシー)① | － (当てはまらない) | | | | | | |
| | DP(ディプロマ・ポリシー)② | － (当てはまらない) | | | | | | |
| | DP(ディプロマ・ポリシー)③ | ◎ (よく当てはまる) | | | | | | |
| | DP(ディプロマ・ポリシー)④ | － (当てはまらない) | | | | | | |
| 他科目との 関連性 | 教材開発演習Ⅰ、事前・事後指導、教育実習Ⅰ・Ⅱなど | | | | | | | |
| 教科書 | 中学校社会科または高等学校地理歴史科・公民科教科書 | | | | | | | |
| 参考書 | 日本教材学会編『教材学概論』図書文化 日本教材学会編『教材事典－教材研究の理論と実践－』東京堂出版 | | | | | | | |
| 評価方法 | 演習への参加態度(30%)、課題(教材作成や模擬授業含む)への取組内容(40%)、学習指導案・総括レポート提出(30%)を総合的に評価する。 | | | | | | | |
| フィードバック 方法(※) | 演習及び課題へのコメント | | | | | | | |
| 評価基準 | 意欲的に教材開発を行い、よりよい模擬授業を実践することができた者には「S」または「A」を与える。 教材開発や模擬授業に不十分な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、取り組む姿勢が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。 欠席超過等は「F」とし、「評価不能」とする。 ※下記「その他」を参照のこと。 | | | | | | | |

| 授 業 科目名 | 【G】 | 教材開発演習Ⅱ | 区 分 | 開講年次 | 【G】3 | 単位数 | 【G】2 |
|------------|--|---------|-----|------|------|-----|------|
| | 【H】 | 教材開発演習Ⅱ | | | 【H】3 | | 【H】2 |
| | 【I】 | 教材開発演習Ⅱ | | | 【I】3 | | 【I】2 |
| 授業内容 | <p><Ⅰ. イントロダクション(第1～3回)> 問題解決型授業の振り返りとその整理、授業の流れと教材単元の選定、学習指導案の作成方法について復習する。</p> <p><Ⅱ. 模擬授業(第4～14回)> 授業の構想、教材開発とその準備、模擬授業の実施とその振り返り、完成学習指導案について、各自の作成する授業計画表に沿って進めていく。</p> <p><Ⅲ. 総括(第15回)> 今後の授業実践に向けた課題を整理した総括レポートを提出する。</p> | | | | | | |
| 予習内容 | 教科書の該当範囲の教材研究 ※授業ごとの予習時間は90分程度を目安とする。 | | | | | | |
| 復習内容 | 授業内容、理解が不十分な点についての復習 ※授業ごとの復習時間は90分程度を目安とする。 | | | | | | |
| その他 | 受講者の人数によっては演習内容の配分は一部調整することがある。 ※上述した「履修条件」に照らし、演習の継続が見込めない意欲や態度が明らかな場合は、その時点で本演習の「停止」を勧告する。 | | | | | | |